

Bell Forum

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

地域と職員とともに栄えるチーム

連載 登録医のご紹介

医療最前線

総合相談センターの挑戦

2016
Spring
No. 51

TOPICS

第19回地域医療懇話会を開催しました

健康塾 開催報告

大規模災害訓練

社会医療法人生長会 創立60周年記念式

生長会・悠人会 平成27年度SC21発表会

資格取得 母性看護専門看護師

クリスマスコンサート

総合相談センター

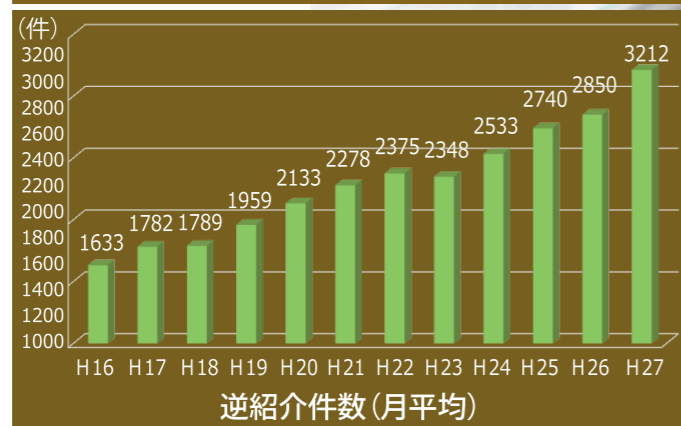
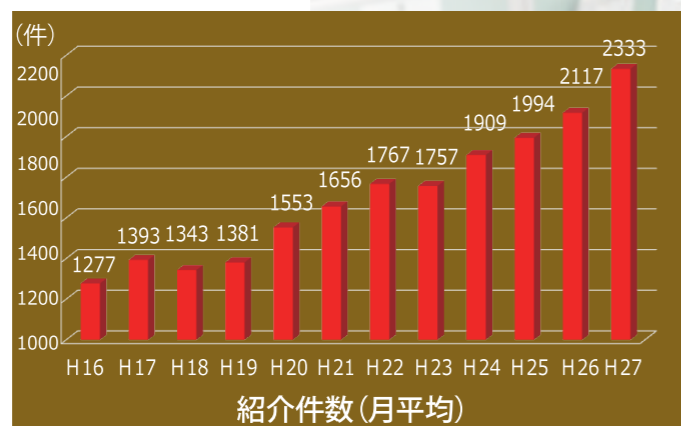
地域医療連携室

当室は、事務員 7 名で、主に前方支援として活動しております。外線電話 7 台、FAX2 台体制で、平日は 20 時迄、土曜日は 17 時迄、当日受診や診察・検査予約に迅速に対応しております。

おかげさまで、当院が地域医療支援病院に認定された平成 16 年から紹介件数、逆紹介件数ともに順調に件数が伸びており、10 年余りで約 2 倍の件数となっています。特に逆紹介件数は、月平均 3200 件を超えてきており、病状が安定した患者さんには全身の健康管理を含めて「かかりつけ医」の紹介を積極的に行っております。患者さんが「かかりつけ医」を簡単に探すことができる冊子の、外来への設置などの取り組みをはじめ、これからも「地域完結型」の医療を推進してまいります。

勉強会につきましては、毎月郵送にて各医療機関へご案内を差し上げ、年間 20 回以上、毎年延べ 1,000 名以上の参加を頂いています。

今後も地域の先生方やスタッフの方々と、当院医師、地域医療連携室との顔の見える連携を重視した活動をしていきたいと考えております。



医療福祉相談室

病気療養は、身体的な辛さのみならず治療費等による経済的な圧迫など、生活の様々な事柄に大きく影響してきます。また生活課題が起因した発病や増悪も少なくありません。そのため、医療ソーシャルワーカー（医療福祉相談室）が様々な生活課題や問題に対し、患者さんやご家族、また地域の医療・福祉関係者と共に考え、患者さんやご家族のご意向を出来る限り尊重しながら、社会保障制度や社会資源を活用して具体的な解決に向けて支援していきます。

当院への通院・入院をきっかけに周産期・小児～成人・高齢者まで幅広い年齢層の生活課題に対し、その解決が図れるよう、スタッフ一丸となって支援にあたります。

がんサロン

ベルランド総合病院では毎月 1 回がんサロンを開催しています。



色んな『物づくり』の体験・製作や、がんに関わる話題提供、参加者同士の語りを中心とした『茶話会』も開催しています。

患者様相談室

当院を利用される患者さんが、満足度の高い、ゆき届いた「診察・看護・サービス」を安心して受けていただくことを目的とし、平成 12 年に患者様相談室は開設致しました。

当院をご利用頂いている皆さまの様々な相談を承っておりますので、お気軽にご相談ください。

入退院支援センター

入院前の面談を通して、様々な問題を早期に把握し円滑な入院生活が送れるように支援します。また今年度から、訪問看護ステーション勤務経験者が加わりました。医療ニーズの高い方や症状コントロール等、継続した看護支援を必要とされている方の、急性期医療から在宅への円滑な移行のための退院支援・調整をおこなっております。

主な業務内容

- 外来通院中の療養生活の相談
- 入院のオリエンテーション、疾患・治療・検査の詳細（クリニカル・パスを用いた説明：49 疾患）や不安・不明な点について確認し、患者さんの身体的・社会的・心理的状态を把握し、専門・認定看護師や病棟看護師、MSW と連携し支援
- 入院予定時から退院後を見据えた介入
- 急性期医療から在宅への円滑な移行のための退院支援・調整
- 24 時間 365 日救急医療を担う施設として、必要な院内ベッドの調整

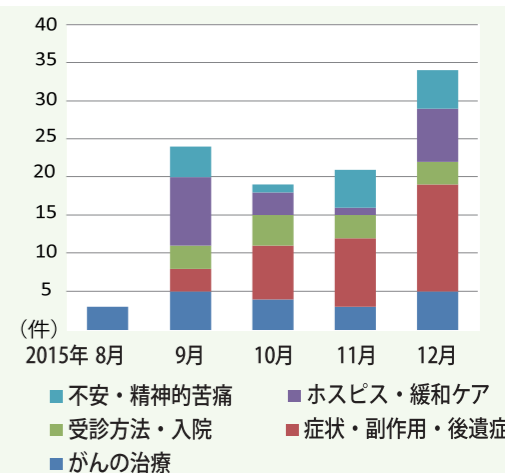
今年度実績

- 入院支援：約 430 件 / 月
- 在宅復帰率 95.5%

がん相談支援センター

がん治療と症状コントロールに詳しい知識を持った専門看護師、認定看護師が曜日別に担当し、対応しています。設置後 5 カ月が過ぎ、月平均 30 件程の相談をいただくようになりました。

がん患者さん、ご家族の方々、医療スタッフからのさまざまなご相談に対し、情報提供をしたり、必要時は多職種と連携し、サポートさせていただいています。中には、「誰にも相談できなくて」と相談に来られた患者さんが「少し安心できました。」と笑顔を見せてくださることもあり、やりがいを感じるとともに、果たすべき役割の大きさも実感しております。



第 19 回 ベルランド地域医療懇話会を開催しました

形成外科の取り組み

形成外科 部長 てい さとし
鄭 聡柄



基本的姿勢

- 幅広い疾患を取り扱います
- 困った症例は気軽に相談して下さい

※医療用レーザーは設置していません
 ※自費による美容外科手術は
 おこなっていません

特に力を入れたい疾患

- 皮膚、皮下腫瘍（良性・悪性）
- 肥厚性瘢痕、ケロイド
- 眼瞼下垂
- 下肢静脈瘤
- 難治性潰瘍
- 腋臭症

当科では、外傷、皮膚腫瘍、先天異常はもとより、皮膚潰瘍や褥瘡などの慢性創傷、加齢性変化ともいえる眼瞼下垂症や下肢静脈瘤など幅広い疾患に対応いたします。また、乳癌や軟部腫瘍切除後の再建、ケロイドに対する照射線治療など他科との連携も症例に応じて行っております。手術に際しては、機能的にはもちろんのこと、整容的にもより美しく仕上げることも当科に与えられた大きな任務であると考えております。

地域に根ざした敷居の低い形成外科を目指していきたいと考えておりますので、お困りの症例がございましたらお気軽にご相談ください。

臨床検査部の紹介

中央検査部 部長 かわむら まさよ
川村 真代



臨床各科の診療の土台となる検査部門について、紹介させていただきました。生理検査部門では、通常の検査以外に、心臓カテーテル検査や心臓血管外科手術などのチームに参加しています。技師が機器操作を担当することで、医師が検査や手術に集中できる環境を作っています。神経内科の特殊検査として導入した非侵襲的脳磁場検査（MEG）は、検査のための薬物の注射や放射線などの被曝の心配のない、完全非侵襲な脳機能検査です。検体検査部門では、各々 200 検体 / 日を超える生化学検査や、血球検査を迅速に滞りなく行うため、複数の各種自動化装置を導入し、機器のトラブル発生時のバックアップ体制も整えています。輸血については検査のみでなく、輸血用血液製剤の保管や払い出し業務も担当しており、認定輸血検査技師を中心にきめの細かい管理が行われています。

微生物検査では、POT 法による MRSA の遺伝子検査を導入して、菌株の同定を行うことで、院内感染対策に大きく寄与しています。病理検査では院内での標本作製だけでなく、病理解剖も行っています。今後は膨大な検査データをデータベース化し、診療の質の向上に役立てていくことを目指したいと思います。



POT法



心臓カテーテル検査・治療

高齢者肺炎への取り組み

呼吸器内科 部長 まもと たかし
真本 卓司



などを包括的に行うことが必要になってきます。

当院では、誤嚥性肺炎を疑う高齢者肺炎に対し、地域連携パスを用いることにより、急性期感染症治療から早期に亜急性期病床への転院をすすめ、シームレスな医療、嚥下評価、リハビリテーションを提供できるよう努めています。

地域における当院の役割を明確にし、急性期呼吸器疾患の受け入れを拡充したいと考えています。

疾患別死者数の報告では、肺炎は 2011 年度に脳血管疾患を抜いて悪性新生物、心疾患に次いで第 3 位となりました。入院患者の半数以上は 70 歳以上の高齢者が占めており、その 70% 以上が誤嚥性肺炎であると報告されています。

誤嚥性肺炎の原因は、食事の明らかな誤嚥だけでなく、夜間の不顕性誤嚥が原因の多くを占めており、反復しやすいという特徴を有しています。

そのため、感染症治療に引き続き、口腔ケア、体位保持、意識状態の評価を行い、栄養摂取法の選択（嚥下リハビリテーションや経管栄養）、療養場所の選択

当科が今後行う中耳手術

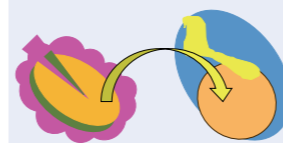
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 なかえ すずむ
中江 進



現在常勤医は二人、非常勤医が 4 人です。頭頸部腫瘍の手術に加え、新たに中耳手術を開始いたします。

鼓室形成術

- ① 耳珠軟骨 / 軟骨膜による island flap 使用



Large island



Small island

- ② 後壁削開型鼓室形成術の改良：Sporn の平低化と外耳道入口部形成が主です。

その他、施行可能な手術は、アブミ骨手術、顔面神経減荷術、内耳窓閉鎖術、内リンパ嚢開放術、外耳道癌手術などです。

なお、2015 年の中耳手術の内訳は鼓室形成術 40 耳、アブミ骨手術、顔面神経減荷術、内リンパ嚢開放術各 1 耳の 43 耳でした。

登録医のご紹介

ぐんぐんキッズクリニック 院長 なかの 中野 けいじ 景司 先生
小児科・アレルギー科

星座：しし座 血液型：AB型(+)
趣味：キャンプなどアウトドア(での食事?)



	月	火	水	木	金	土
8:30~11:30	○	○	○	○	○	○
14:00~16:00	○	○	/	○	○	/
17:00~19:00	○	○	/	○	○	/

※14~16時は完全予約制
※休診日・・・水・土曜日午後/日曜日、祝日

住所：大阪府堺市北区百舌鳥町2丁21 大休ビル1F
TEL：072-275-8502

Q. 医師を目指した動機は？

歯科開業医である父の仕事や、地域の患者様とのやりとりを見て育ちました。祖母の「人の喜ぶことをしなさい」という何気ない一言が、ずっと心の中に残っており、医師を目指したことは自然な流れだったと思います。
小児科医を目指した理由は、子どもは理由なく守ってあげられる存在だと感じたからです。無邪気な笑顔を守ってあげたい、というシンプルな想いです。

Q. 診察の際に心がけている事は？

お子様の健康を預かる者として最も重要なことは、命に関わるような疾患を絶対に見逃さないことです。重大な疾患でないことがわかれば、時間をかけて確実な診断をし、必要最低限の治療を心がけています。子どもは優れた回復力を備えています。必要以上に手出しをしないことも重要です。そのかわり、本人およびご家族と、ゆっくりと時間をかけてお話しをします。必要なのは、お薬よりもコミュニケーションだと考えています。

Q. 地域医療について

地域医療における私たちの役割は、1にも2にも「気軽に受診できる信頼されるクリニック」であることです。まずは、気軽に相談にお越しいただいて、その中で高度な検査や治療が必要なお子様を的確に発見し、ベルランド総合病院のような信頼できる2次病院へスムーズにバトンをつなぐことを、常に意識しています。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

平素から患者様のご相談をフットワーク軽く受けていただき、ストレスなく連携を取らせていただいております。入院させていただいた患者様のお返事も速やかに頂いておりますので、安心してお願いできています。

Q. 最後に一言お願いいたします。

ぐんぐんキッズクリニックは平成25年に北区の中百舌鳥駅前で開院致しました。現在3名の小児科専門医が診療にあたっています。一般小児科とアレルギー診療を中心に、ワクチンや健診など予防医療にも力を入れています。
また、地域の子育てを積極的に支援していきたいと考えており、平成25年12月からクリニックの2階で「ぐんぐん病児保育室」を、平成27年12月からは南区の「病児保育室ゆめぼけっと」を運営いたしております(堺市の委託事業)。
まだまだ発展途上の若いクリニックですので、ご不便やご迷惑をおかけすると思っておりますが、これからも地域の子育て支援に全力で取り組んで参る所存です。宜しくお願い申し上げます。

新規登録医 登録医件数 378件 H27.12.1 現在

堺区	堺京町・ヒロ・クリニック <small>じんない ひろき</small> 陣内 浩喜
堺区	森口クリニック <small>もりぐち とものり</small> 森口 知則
和泉市	西家内科胃腸科クリニック <small>とりいえ あきひろ</small> 西家 章弘

医療従事者向け セミナー

2月13日(土)	堺市自殺未遂者ケア研修会 ベルランド総合病院 AIF ホール
2月20日(土)	第10回泉北地区消化器カンファレンス ホテル・アゴラリージェンシー堺
3月5日(土)	ベルランド緩和ケア懇話会 ベルランド総合病院 AIF ホール
3月19日(土)	第2回泉北地区認知症カンファレンス ベルランド総合病院 AIF ホール
3月26日(土)	第4回骨関節セミナー ベルランド総合病院 AIF ホール

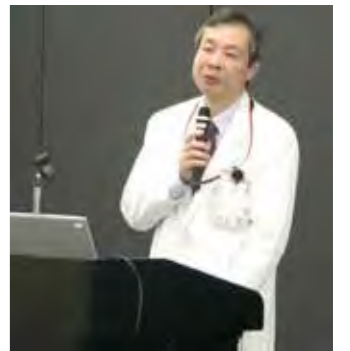
第22回健康塾 『乳がん 正しい知識を持ちましょう』を開催しました

12月1日にベルランド総合病院AIFホールにおいて、第22回健康塾「乳がん 正しい知識を持ちましょう」を開催しました。

今、テレビやニュースで「がん」の話題が毎日のように報じられており、日本人の2人に一人が「がん」にかかり、3人に一人が「がん」で亡くなっているのが現状です。乳がんは女性で最も多い「がん」で、12人に一人の割合で発生するといわれています。最も発生が多いのは40歳代後半で、その後も発生率はあまり減少しません。しかし、乳がんは比較的性質の良いがんの一つであり、優れた検査法や有効な治療手段が多いことから、早期に発見して適切な治療を受ければ、ほぼ完全に治すことができます。また、たとえ進行していても、患者さんの病状に応じた有効な治療手段があり、決してくじけることなく治療を続けていただくことができます。

最近の乳がんの診断法、治療法はどんどん進歩し、治療に対する考え方も変わってきています。間違った情報を鵜呑みにすることなく、医師や看護師の説明をよく聞き、よく話し合い、患者さん自身が十分納得した上で治療を受けることが大切です。

講師：乳腺センター
センター長 阿部 元



正しい知識を知れば
乳がんも怖くない



ベルランド総合病院は堺市乳がん検診施設に指定されています。

乳がん検診の予約は電話で受け付けておりますが、インターネットからでも予約が可能です。女性医師を希望される方は、予約の時にその旨を伝えていただければ対応させていただきます。

第21回健康塾 『足の形、指、爪』を開催しました

糖尿病の3大合併症は、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害です。この3大合併症の中で、最も早い時期に現れるのが糖尿病性神経障害です。糖尿病性神経障害では、怪我や火傷をしても痛みを感じにくくなり、小さな傷でも知らないうちに悪化し、重症化すると足の切断につながることもあります。また、糖尿病がない方でも、歩くのに不適切な靴を長年履き続けることで、外反母趾などの変形の原因になります。



講師：慢性疾患看護専門看護師 片山将弘

健康塾では、糖尿病性神経障害の症状や日頃のケア方法と、靴の正しい履き方、靴の選び方について説明させていただきました。

この日は、雨で足場の悪い中、118名の方が参加して下さいました。参加者の皆さまは、講演中メモを取ったり、質問をしたり、熱心に聴いて下さっていました。終了後のアンケートでは、「糖尿病と足の深い関係があることが分かった」、「靴の選び方が良くわかった」等のご意見を頂きました。また、「説明後、実際に診てもらいたい」、「有料でもいいので、個別で診てほしい」という声もありました。

当院では、糖尿病フットケア外来を月曜日・火曜日・金曜日に行っています(予約制)。糖尿病で足のことについてお困りのパートナーは、当院の内分泌・代謝内科医師にお気軽にご相談ください。

今後も地域の皆さまを対象とした足病変予防に関する啓発活動を行っていきたく考えています。



第23回ベルランド健康塾 市民向け セミナー 【参加無料】

床ずれ おむつかぶれ

歳とともに弱くなる肌、大事にしていますか？
体が痛い思いをする前に、
皮膚のスペシャリストの話を聞いてみましょう。

講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 山名映己子

日時 平成28年 2月18日(木) 午後2時30分
午後3時00分

場所 ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール
※ご予約は不要です。直接お越しください。

お問い合わせ ベルランド総合病院
地域医療連携室 TEL 072-234-2001(代)

大規模災害訓練



災害医療においても急性期病院としての役割を最大限に発揮するために

ベルランド総合病院で初めての「大規模災害訓練」と、それに関連した「エマルゴ机上シミュレーション訓練」を実施しました。

ベルランド総合病院は平成26年9月に新病院が竣工、翌年4月には駐車場などの外構工事も完成し、診療機能とアメニティー、利便性を大幅に向上させました。地域の高度急性期・急性期医療の中核を担うことを主眼とする新たなスタートです。

東日本大震災から間もなく5年が経過しようとしていますが、そう遠くない将来に南海トラフ巨大地震の発生が予想されています。地震以外でも、災害はいつ起こるか分からないだけに、災害医療においては事前の訓練を含めた準備が重要です。

災害時に急性期病院としての役割を最大限に発揮するため、準備の一環として、院長の陣頭指揮のもと、災害対策委員会が中心となって訓練を企画、実施したので報告します。

救急看護認定看護師 友田新二

平成27年 10月31日 エマルゴ机上シミュレーション

スウェーデンで開発された救急・災害医療の机上シミュレーションであるエマルゴ訓練を、堺市立総合医療センター救命救急センターの中田康城救急外科部長を講師に迎えて開催しました。

総勢85名のスタッフが参加しました。訓練の内容は、経過していく時間軸の中で、傷病者を想定したマグネット付き絵札を用いて、様々なエリア（災害本部・応急救護所・各トリアージエリア・病棟・手術室・放射線部門など）に分かれ、各部署に課せられた役割を行うという訓練です。訓練開始当初はなかなかイメージが湧かず、難しい表情を浮かべているスタッフが多かったです。時間が経つにつれて徐々に積極的な姿勢へ変わっていきました。

大規模災害訓練開催の1週間前に実施する事で、「災害訓練に、より具体的なイメージを持って臨むことができた」や、「実際に災害が起こった時の対応について、いかに無知であるかを知る良い機会となった」などの声が聞かれました。



会場では実際さながらサイレンの音が鳴り響いていました。

平成27年 11月7日 大規模災害訓練



傷病者は重症度により、治療の優先度が決定されます。



災害対策本部には職員の数や物資・燃料の把握、行政との緊密な連携なども求められます。

ひとたび大きな災害が起きれば、人・物・情報すべてに影響が及びます。人は怪我をし、物は壊れ、情報を得るための手段は途絶えるため、医療機関は混乱し、病院としての役割を果たす能力が著しく低下すると言われています。そのような状況下、災害で負傷・被災した地域住民は、医療を求めて病院に押し寄せます。

今回の訓練は約200人が参加し、大地震が発生したという設定です。負傷した地域住民を素早く受け入れるための体制を整え、傷病者を一人でも多く助けるためのトリアージ実践や、治療的介入の実践といった部分を中心に訓練を実施しました。

傷病者役には、打撲痕や傷を身体にペイントして本物さながらに見立てたり、傷病者の搬送に布担荷を用いて搬送したりしました。治療的介入では、バイタルサインの測定や、限られた資源の中から治療を行うなど、できるだけ実践に沿った訓練を行いました。

初めての大規模災害訓練であり、まだまだ完璧な実践には至っていませんが、災害時にも地域住民に安心していただける病院を目指し、静穏期である今から訓練を重ねて災害対策に取り組みます。

社会医療法人生長会 創立 60 周年記念式
生長会・悠人会 平成 27 年度 SC21 発表会

平成 27 年 12 月 6 日
国際障害者交流センター ビッグ・アイにて開催

当法人創立 60 周年記念式と SC (サービスクリエーション) 21 の発表会を昨年 12 月に開催いたしました。例年、記念式典では永年勤続者の表彰や、学術貢献表彰、さらにサービスの品質向上を目的としたベストサービス職員表彰が行われます。

今年は上記以外に 60 周年記念事業として、泉大津市吹奏楽団による演奏や、今後 10 年間に法人が進むべき方向 (ビジョン) を理事長が発表しました。

記念講演として、桑田真澄氏 (PL 学園→読売巨人軍→パイレーツ) に『夢をあきらめない』をご講演頂きました。自分にできる事を根気良く続け、努力は集中して行い、小さな成功体験を積み重ねることが大事だと、経験談を中心に時に笑いも織り交ぜ語って頂きました。



法人内すべての施設からスタッフが集まりました



記念講演 桑田真澄氏

SC21 発表会では、今年度の QC 活動による業務改善の成果を発表しました。

ベルランド総合病院からの演題は、造影剤の副作用発生時の訓練を行って放射線技師の対応力を向上させた放射線室の活動と、他院搬送時に救急救命士が救急車に同乗することで患者さんやご家族に大きな安心感を持って頂けた集中治療室 (救急部門) の活動でした。両演題ともに審査員から高く評価され、特に後者は今回の優秀演題に選ばれました。



発表者 集中治療室 (救急部門) 天野 真也



発表者 放射線室 奥中 雄策

文：管理部 / 患者様相談・地域連携部 副部長 村中秀樹

母性看護専門看護師の資格を取得しました

産科病棟 科長 生駒 妙香

少子化が進む一方で、専門職による支援が必要な妊産婦は増加しています。特に心理社会的リスクが高く、妊娠から出産・育児まで“切れ目ない支援”が不可欠と言われる特定妊婦が多くなっています。ベルランド総合病院の産科では、このような支援が必要な妊産婦に対して、10 数年前から、地域と連携した継続的支援を行ってきました。

今回、私が認定された母性専門看護師には 6 つの役割 (実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究) があり、まさに、これまでの当院における実践や相談・調整が評価されたものだと考え、大変うれしく思っています。実践のなかで、常に根底にある想いは、おかあさんと子どもたちが楽しく過ごせること、“楽しい育児”への支援です。その対極にある、子ども虐待が無くなることを切に願っています。



今後は更に、女性がもつ力を十分に発揮できるよう支援する Women-Centered Care (女性を中心にしたケア) を目指します。流産や不妊、DV (ドメスティック・バイオレンス) など、女性の生涯に亘って生じるニーズに応えていくことが母性看護専門看護師の使命だと考えるからです。

母性看護専門看護師は、全国で 60 数名とまだ少ない現状ですが、他施設の専門看護師と連携するとともに、当院のスタッフと協働して実践を積み重ねたいと思います。

H27.12.10
開催しました

クリスマス
コンサート



ツリーとバルーンでお出迎え



スタッフ有志のバンド『チラリズム』感謝の気持ちが届きますように!!

入院患者さん・ご家族の方々にゲストにクリスマスコンサートを開催しました。第 11 回目となるこの企画は、毎年、院内のさまざまな職種の主任がチームを作り、中心となって準備・運営を行っています。今年も、「患者さん・職員ともに、笑顔になることができる！」を目標に、病気や治療に向き合っておられる皆様に、少しでも楽しい時間をお過ごしいただけるよう準備を進めてきました。

当日は、ボランティアの方々にもご協力いただき、バルーンアートで華やかに会場設営。患者さんに安全に会場までお越しただけできるよう、スタッフの力を結集して移動のお手伝いをさせていただきました。たくさんのご協力のお陰で、110 名を超えるゲストにご参加いただくことができました。

コンサートは、ボランティアで演奏をお申し出くださった通院患者様のハーモニカ演奏で幕を開けました。懐かしくやさしい音色に聴きいってられる患者さんの姿が印象的でした。

続いて、スタッフ有志で結成したバンド“チラリズム”。勤務の合間をぬって練習を重ね当日を迎えました。「僕たちは、いつも患者さんから、力をいただいて、頑張っている。感謝の気持ちを伝えたい」と、心を込めて演奏を披露。「きっとたくさん練習してくれたんやね。楽しかった。」との患者さんのお言葉と笑顔に、さらなる力をいただきました。

そして、最後は、はっぴいえんど音楽隊。クリスマスソングの演奏では、参加者のみなさんも一緒に口ずさみ、会場全体が一つになりました。

あっという間の約 1 時間でしたが、患者さん・ご家族の方々だけでなく、職員も笑顔にさせていただき、楽しい時間となりました。

これからも、職員のチームワークを発揮し、患者さん・職員ともに笑顔になることができる、ゆき届くサービスの提供を目指してまいります。



もちろんベッドでの参加も OK!

